



○インストラクターからのまとめでは、緊急時にパニックとならないよう日頃からの「心の備え」が最も重要であるとのアドバイスを受けた。

概要

【三宮 直人】

元消防署職員の担当者から案内いただき実際の災害場面の経験から具体的な知恵をいただいた。

暴風体験では、「平均風速10mでの体験だが、実際には風速は瞬間で上下するので注意する」。煙避難体験では、「階段の段差に空気が残っている場合がある。避難の際に呼吸を確保」する。消火体験では、「火の上部ではなく燃えている深部を狙う」。地震体験では、「頭を守る」。過去の大地震を選択できたが関東大震災は揺れの時間が長く恐怖感が一番強いと感じた。

これまで札幌市自体は大きな自然災害を経験していないようだが、胆振東部地震を受け更なる防災意識の向上にギャチェンジしているように思う。

柏崎市においても防災について進めているが、「いざという時の命を守る知恵」を身に着ける取組みが必要である。

【重野 正毅】

柏崎市内で、「地震」「消火」「煙」「暴風」の体験が1か所でできるところはない。また、3Dによる水害体験シアターもある。実際に中越沖地震を体験している柏崎市にこのような防災センターを整備することが必要だ、ということは簡単だが、そこまでは現実問題として難しい。今ある組織を使い、子どもたちから防災意識を高めることと、町内会や近所同士の「互助」を高めるような啓発活動を一層充実させていきたい。防災士としての活動を行っている、ここ5年くらいの間で、柏崎市民の防災意識の向上を、肌感覚だが、感じる事が多くある。さらに進めていきたい。今回体験した「地震」の揺れは、新潟工科大学でも体験可能なので、市と大学の連携として市民に広報してもいいように思う。

